



学年発表にしろ、校歌や「ふるさとの色」の全校合唱にしろ、子どもたちはただ一生懸命で「感動させてやろう」などと思っていないかもしれません。しかし、野の花自らがその美しさを誇示しないゆえに美しいように、子どもたちの無心さが見る人の心をひきつけてやまないかもしれません。ハンカチを目当てながら発表を聞いてくださっている地域の方もお見受けしました。

地域と学校の力を結集して～閉校記念行事～

「神様は乗り越えられない試練は与えない」と言われます。今回の学習発表会で最も大きな試練を与えたのは、今回初めての学習発表会を迎えた1年生でしょう。

前日に体調不良の子どもが多く現れました。1人抜けただけでも、台詞をだれがカバーするか、動きをどのように調整しなければならないか、考えなければならないことができます。それが何人もいたら……、しかも経験の一番少ない1年生で……。

それでも、「やりたい!」「できる!」という子どもたちの気持ちに押され、人数が減っても実施することにしました。

閉校記念式典当日も、さらに欠席者が増える中、開会前の短い時間を使って、だれがどのようにカバーするかを確認していました。その様子を窓越しにみていて、確かに大変な状況なのですが、なぜか、「うまくいく気しかしない」でした。



【本番直前、新たな役を引き受ける1年生】



【これがこの日の1年生オールメンバー】

ステージ上でも、堂々たるものでした。「おおきな かぶ」の劇で、かぶをひっぱる人数は半分に減りましたが、ちゃんと、かぶはぬけました。予行の時以上に大きな拍手が湧き起きました。

始まりよければすべてよし。これを見た上級生も奮起し、1日のプログラムを成功裏に収めたのでした。

休んでいる1年生が元気に登校したら、どこかの機会で1年生だけの発表の場をもつ予定です。次はみんなそろっての演技です。友達同士信頼し合って、安心して本来の発表ができます。きっとこの日以上の素晴らしい発表になることでしょう。やはり「うまくいく気」しかしません。平日開催になると思いますが、閉校記念式典で発表したくてもできなかった子どもたちの、満を持しての登場をお楽しみください。

また、この日1日を通して保護者・地域の方にたくさんのご尽力をいただきました。子どもたちは、獅子舞もちらり見たことはあるでしょう。合唱を聴いたこともあるでしょう。縁日屋台を楽しんだこともあるでしょう。肉もっそを食べたこともあるでしょう。それでも、自分たちだけのためという「特別感」はここにしかありません。「地域に思われている自分たち」を強く感じた1日でした。

「ふるさとの屋ベ」も終わろうとしていたころ、低学年の男の子が、「なんで来年から本山小学校に来れんの？ぼくは本山小学校がええ。」と言ってきました。

なんで閉校するのでしょうか。地域に包まれた、こんなにいい学校なのに。